

山辺流公務員試験の虎の巻 1 / 3

～得点に直結する勉強法～

本電子書籍は、著作権法で保護されている著作物です。
使用に関しましては、以下の点にご注意ください。

- ◆本電子書籍の著作権は、作者にあります。作者の書面による事前許可なく、本電子書籍の一部、または全部をインターネット上に公開すること、およびオークションサイトなどで転売することを禁じます。
- ◆本電子書籍の一部、または全部をあらゆるデータ蓄積手段(印刷物、電子ファイル、ビデオ、DVD、およびその他電子メディアなど)により複製、流用および転載することを禁じます。

使用許諾契約書

本契約は、本電子書籍をダウンロードした法人・個人(以下、甲とする)と作者(以下、乙とする)との間で合意した契約です。

本電子書籍を甲が受けとることにより、甲はこの契約は成立します。

第1条(目的) 本契約は、本電子書籍に含まれる情報を、本契約に基づき、甲が非独占的に使用する権利を承諾するものです。

第2条(第三者への公開の禁止) 本電子書籍に含まれる情報は、著作権法によって保護されています。また、本電子書籍の内容は、秘匿性の高い内容であり、甲はその情報を乙との書面による事前許可を得ずにいかなる第三者にも公開することを禁じます。

第3条(損害賠償) 甲が本契約の第2条の規定に違反した場合、本契約の解除に関わらず、甲は乙に対し、違約金として、違反件数と金壱万円を乗じた価格の10倍の金額を支払うものとします。

第4条(その他) 本電子書籍に沿って実行し、期待通りの効果を得ることができず、万一如何なる損益が生じた場合でも、乙は甲に対して責任を負わないものとします。

どうも。山辺です。

この度は私のメルマガ講座にご参加いただきありがとうございました。

そしておめでとうございます！

このレポートを手に入れたということは、
周りのライバルたちよりかなり有利な立場に立てたということです。

ほとんどの人はただ思考停止で公務員試験の勉強をしているので、
この情報を実践すれば、それだけでトップ 10%に入ることができるでしょう。

これらのレポート群は、
私が実際に実践し、効果があったものだけをお伝えしています。

ですので、安心して実践してくださいね。

これらのメルマガ講座でもこういったプレゼントをちよくちよく配布していくので、お楽しみに。

ぜひあなたの合格に役に立ててください。

さて。

今回は、**公務員試験に合格するための「勉強法」**をお話しています。

この方法で勉強することで、

「あなたの勉強したことがそのまま得点に直結」するようになるため、

勉強すればするほどライバル達より成績がグングンと上がっていくはずですよ。

予備校などでは絶対に聞けない話だと思うので、気合を入れてお読みください。

.....

私は数多くの受験生から相談のメールをもらっているが、
その中でも多いのが、

- 何度復習してもなかなか知識が定着しない。
- 講義を聞いても、その内容の問題が解けない。
- 理解できていないため、すぐに忘れてしまう。

といった質問だ。

それらを集約すると、

「**効率的に勉強するには、どうすればいいのか？**」

という質問になる。

あなたも「勉強法」に悩んでいるのではないだろうか？

そこで今回は山辺流の勉強の仕方について説明していく。

・・・とその前に。

その私の勉強法をお話する前に、考えて欲しいことがある。

なぜほとんどの受験生は

「講義などを受けた後、問題を解く」
という勉強をしているのか。

しかも、**授業を聞いて勉強した気になっても、
肝心の問題が解けるようにならないのではないか？**

「せっかく授業を聞いたのに、問題が解けるようにならない。

だけど次の新しい授業もあるから、復習に時間が取れない。

・・・このような勉強をしていて本当に合格できるのだろうか??」

あなたも勉強していて、
このような悩みを感じているかもしれない。

だが私はそのような悩みとは無縁だった。
勉強すればするほど、解ける問題が多くなるのだった。

つまり

「勉強すればするほど、多くのライバルたちとの差が広がっていった。」と
いうわけだ。

なぜ山辺はそんなことができたのか？

それは、

- 私に特別な才能があったわけではないし、
- 人より頭が良かったわけでもない。
- 勉強の才能があったわけでもない。
- 一度覚えたら忘れないような、天才的な記憶力があったわけでもない。

というような天性のものがあったわけではない。

私は勉強に「ある工夫」をすることで、得点に直結する勉強ができるようになったのだ。

なぜ多くの人が勉強をしても肝心の問題が解けないのに対し、
私は勉強すればするほど、問題が解けるのか？

結論から話していく。

それは、

「はじめから過去問で勉強した」
からだ。

私は予備校の授業をフルシカトした。
多くの受験生とは違う努力の仕方をした。

だから楽に成果を出せたのだ。

ほとんどの受験生は勉強をする場合、
講義を受け、その分野を理解した上で、問題を解くというように勉強していると思う。

つまり

1. 講義を受ける。
2. 講義の復習をする。
3. 実際に問題を解いてみる。

という3ステップで勉強しているはずだ。

おそらくこうやって勉強しているのは、
「学校教育」の影響だろう。

・・・確かに「その学問を理解する」と考えると、このステップで勉強をするのは重要だ。

先生の授業を聞いて、
その授業で聞いた知識を使って、
自分の頭で考えて答えを出す。

このようなステップで勉強することは、
その家屋を深く理解することにつながる。

しかし、

「試験で合格点を取るため」

という目的で考えると、この勉強法はかなり無駄が多い。

だから私は「過去問から勉強するべき。」という指導をしているのだ。

「ではなぜ無駄が多いのか？」について解説していく。

なぜはじめから過去問を使って勉強すべきなのか？

それでは、

「なぜはじめから過去問を使って勉強すべきなのか？」
について解説していく。

・・・とその前に。

再度考えてほしいことがある。

あなたが公務員試験で目指すのは、

「試験で合格を勝ち取る」ためだと思う。

それをもう少し具体的に言うと、

「試験で合格点をとる」ということになるはずだ。

だから、

「出題される問題を解き、合格点を取ることに照準を合わせる。」
という勉強をすべきなのは「サル」でも分かるはずだ。

そのため、

「本番で問題が解けるようになるために、勉強をする」
ということが勉強の最終目的になる。

では「本番に近いもの」といえばなんだろうか？

それが「過去問」である。

つまりはじめから過去問を勉強の中心に据え、

過去問の問題を解けるようになるために勉強することが重要なのだ。

はじめからこのように勉強することで、

「問題を解くためにどのような知識、解き方が必要なのか？」

をはじめから学ぶことができるため、得点に直結する勉強になる。

そもそもほとんどの人が講義を聞いても、問題が解けないのは、

「ただただ講義を聞いても問題を解くために勉強していない」からだ。

ただ本を読んだり授業を聞くだけでは、勉強ができるようにならない。

「問題を解けるようになる」という目的に授業は使うべきだ。

しかし多くの講義ではそのような授業になっていない。

ただただその科目の概要を説明し、

「ここが重要ですよ～」などという**くだらない授業**をしている。

そのような授業を聞いても、試験で得点することはできない。

そのような授業を受けているだけ無駄である。

だから過去問でいきなり勉強することをおすすめしている。

(具体的な勉強法は次のレポートに書いてあるので、課題を提出し、受け取って欲しい。)

はじめから過去問で勉強することで、

- 試験で合格点を取るための解き方がわかる。
- その問題を解くために、どのような知識が必要なのか？

という点に分かるようになるため、

「問題を解く」ために必要な、
「必要最低限の知識」が手に入ることになる。

問題を解くために、
授業などを聞いてその分野の全ての概要を理解する必要はないのだ。

問題を解くための最低限の知識があれば、問題なんて解ける。

その解ける問題をコツコツと増やしていくことこそが、
公務員試験の勉強の本質である。

いきなり過去問を使って勉強する目的は、
得点するために必要最低限の知識はなにか？
という選球眼を身につけることにある。

いきなり過去問で勉強するのは、
問題を解くために必要最低限の知識を見極めるためなのだ。

予備校で授業を受ける弊害

これまでの話を聞くと、

「いきなり過去問から勉強するメリット」が理解できたはずだ。

しかし、99%の人は、

このきわめて単純明快なことが理解できないだろう。

確かに授業を聞いて勉強していると、

「なるほど。こういうことか。」

と知的欲求が満たされるし、自分が賢くなったような気になれる。

だが、

この「予備校の授業を聞いて過去問を解く」という勉強法には、
ある**弊害がある**のだ。

その弊害とは、

「勉強すること」自体が目的になってしまう
というものだ。

その結果、

1. 自分が興味のある分野や得意分野に、はまり込んでしまう。
2. 細かい知識が気になり、得点に繋がりにくい勉強をしてしまう。

と、どんどん重要度の低いところに意識が向いてしまう。

そうなると、問題を解くために必要のない勉強をすることになる。

よく考えてほしい。

そんな勉強をしても、問題が解けるようになるわけではない。

そもそも

「あなたが勉強している目的は何だっただろうか？」

もちろん**試験で合格点をとる**ことだろう。

では合格点を取るためにはどうすればいいのか？

「過去問」を中心に勉強すれば良い。

「過去問が解けるようになる」ために勉強をすることが、合格に直結する勉強ということになる。

これこそが公務員試験を最短距離で合格するための重要な鍵なのだ。

・・・でも「いきなり過去問で勉強しろ！！」と言うと次のような疑問を持つ人がいるだろう。

「山辺さん。過去問だけでは全範囲の勉強ができないのではないのでしょうか？」

・・・おそらくこのような発想になるのは、

「試験は全て問題が解けなくては合格できない！」

という考えが、根底にあるからだろう。

この発想こそが「**公務員試験を難しくしている原因**」である。

もしあなたがこのような勘違いをしているなら、即刻修正してほしい。
この常識を捨てないと、**最短距離で合格することはできない。**

そもそも試験というのは「満点を取らなくても」合格できる。
公務員試験では6~7割取れば合格できるのだ。

また公務員試験の過去問を解けばわかるが、
「過去問は繰り返し出題される」という傾向にある。

以上の2点を考えると、

公務員試験を最短ルートで攻略するためには、
出題されやすい過去問を解けるようにしておくことだ。

これさえ対策していれば合格できる！！

(この具体的な勉強法は次のレポートで解説しているので、ぜひ課題に取り組んでほしい。)

以上の理由により、私は
「**過去問を中心に添えた勉強をするべきだ。**」
ということをお伝えしている。

そして講義や参考書などは、過去問を解いて分からなかった時の
「辞書」
のようなイメージで使うというのがポイントだ。

これが予備校やテキストの上手な使い方になる。

**「試験では基本的な内容を押さえれば絶対に合格できる。
しかしほとんどの受験生は取りこぼす。」**

試験で合格するためには6~7割程度取れば良い。
というのはさきほどお話したとおりだ。

だから毎年繰り返し出題される、基本的な問題を確実に得点できれば、
合格できる。

しかし、このような話をすると、このような疑問を持つ人がいるはずだ。

「基本的な問題に答えれば合格できるの？じゃー誰でも合格できるのでは？」

・・・まったくそのとおり。

しかし、なぜかほとんどの受験生は落ちてしまう。

なぜ基本的な問題さえ得点できれば合格できるのに、
多くの受験生は不合格になってしまうのか？

その最大の理由は、

「基本的な問題を取りこぼしてしまう」からだ。

これがほとんどの**不合格受験生の負けパターン**となる。

「なぜ不合格になる受験生は、基本的な問題を取りこぼしてしまうのか？」

あなたも何かしらの試験を受けたことがあると思うが、その時のことを思い出してほしい。

本番の試験は誰もが緊張する。
限らえた時間で問題を解くため、焦りやミスも起こりやすくなる。

そのような状況で問題を解くと、

- なんとなく分かっている
- なんとなく覚えている

という浅い知識では、不安になる。

そのような状況で基本問題に出会っても、

- え？この問題を解くための公式ってどっちだっけ？
- 基本問題だけど、どっちが正しかったけ？

と疑心暗鬼になってしまう。

その結果、基本的な問題を取りこぼし、不合格になってしまうのだ。

だからもしあなたが「合格者」になりたいなら、次の点を意識すべきだ。

「基本問題は確実に解けるようにしておく」

「難問や応用的な問題は捨てる」

このように、メリハリをつけた勉強をすることを心がけよう。

言い換えると

「基本的な範囲を絞って、その範囲は確実に答えられるようにしておく。」

という守りを固める勉強法こそが公務員試験対策の「キモ」である。

それこそが試験を最短距離で攻略するためのコツだ。

**公務員試験ではすべて配点は同じ。
だから簡単な問題さえ解ければ十分合格できる！！**

・・・とはいっても。

誰もができないような難問を解けないと、合格できないのでは？
と考える受験生はいると思う。

確かに他の人が解けない問題を解けると、有利になる。。
このような問題を解けると「優越感」に浸れるだろう。

しかし、これは単なる**自己満足**と考えるべきだ。
このような考え方をしている合格は遠のいてしまう。

なぜ「難問を解こうとすると」合格が遠のくのか？

それは時間という視点で考えれば理解できる。

あなたは「試験で合格点を取る」ために、公務員試験を受けているはずだ。

しかし当たり前ながら、勉強時間に制約がある。

だから公務員試験の勉強をする際は、

「限られた時間で、合格点を取る」

という意識を持つ必要がある。

これを頭に入れた上で、
「難問を解く」「誰もが解けない問題を解けるように勉強する」
というデメリットを考えてみよう。

そういった難問を解くために勉強しようとする、勉強範囲が膨大になる。

だから難問を解くために勉強範囲を広げようとする、
負担がかなり大きくなることになる。

するとどのような問題が起こるだろうか？

復習がおろそかになってしまうのだ。

闇雲に勉強範囲を広げてしまうと、
復習が足りなくなるため、質の浅い知識になる。

その浅い知識で試験に臨むため、基本的な問題を取りこぼしてしまうのだ。

この

「解けるはずの問題を取りこぼしてしまう。」

というのが公務員試験の負けパターンということを、再度確認しておこう。

試験勉強というのは、「忘却」との戦いだ。

公務員試験は忘却との戦いだ。
常に復習しないとすぐに忘れてしまう。

しかもただただ覚えているだけでは弱い。
先程も言ったとおり、基本問題を取りこぼさないために、
「**確実な記憶**」にしておく必要がある。

つまり、試験会場で「**すぐに取り出せる**」濃い記憶にしておかないと、
得点することができないということだ。

・・・あなたもこのような体験をしたことがないだろうか？

試験を受けた時は分からなかったが、
「あの問題ってこうやれば解けたじゃん・・・」
というように後から解き方を思い出したという経験はあると思う。

そのような取りこぼしが起こってしまうのは、深く記憶していないことに原因がある。

そのような浅い知識では
「**取れるはずの問題を取りこぼしてしまう。**」のだ。

だから、確実に基本問題を解けるようになるためには、
「**問題を見た瞬間に解き方、論点を瞬間的に思い出せる**」
という状態にしておく必要がある。

公務員試験の本質が理解できただろうか？

「**絶対に得点できる問題をどれだけ知っているか？**」
ということなのである。

あなたは今までの話を理解しているなら、
多くの受験生が陥る不合格パターンが理解できたと思っている。

だからあなたが合格するためには、何度も繰り返すが、
「基本的な内容に絞って、何度も繰り返し勉強し、その内容を完璧にしておく」

ということが勉強をする上での重要なルールとなる。

この戦略こそが「限られた時間で、最も効果的に得点するための勉強法」になる。

公務員試験は

「限られた勉強時間で合格点を勝ち取るためのゲーム」
というゲームなのだ。

重要なのは、何度も言っている通り「過去問」だ。

何度も繰り返し出題される基本問題を確実に解ける状態にしておく。

これこそが合格の鍵となるということを押さえておこう。

さて。

では今回のレポートのまとめを話しておく。

今回のレポートでは、

- 勉強は過去問から始めよ。
- 過去問中心に勉強することで、問題を解くために必要最低限の知識を勉強できる。
- 問題を解けるようになるために、勉強しろ！
- 応用問題等は捨てる、基本的な問題を何度も繰り返せ！！

ということについて、お話してきた。

もし腑に落ちていないところがあれば、何度も読んでおいてほしい。

それでは今回はこの辺で。

ありがとうございました！！